



THREE REFLECTIONS



SCHIPPETARO

THE WONDERFUL TEA-KETTLE



ちりめん本と 女性の文化



MOMOTARO

今から約百三十年前、
ちりめん本と呼ばれる、
美しい木板挿絵入りの歌文の和装本が出版され、
欧米で日本土産として珍重されました。
英語版「ちりめん本日本昔噺シリーズ」全巻を中心に
構成された本展では、このシリーズの訳者の中で唯一の
女性であったジェイムス夫人（夫人の「おぼろ」に
光を当て、これまであまり注目されることのなかった、
ちりめん本の「女性の文化」としての
側面を明らかにします。



TONGUE-GUT SPARROW



THE FISHER-BOY URASHIMA



2018年
10/27(土) - 12/20(木)

8:50~21:30(日曜、祝日は9:30~18:00)
入場料：無料(どなたでもご入場いただけます)

神奈川県横浜キャンパス15号館図書館展示ホール
(東急東横線「白楽駅」または「東白楽駅」下車 徒歩13分)

「ちりめん本と女性の文化」シンポジウム&展示解説

開催日時：11月24日(土)14:00-17:30
会場：神奈川県横浜キャンパス3号館206教室
講師：クリスティーナ・M・スパイカー(美術史家、セント・キャサリン大学講師)
大塚奈奈絵(元国立国会図書館司書監、東洋大学他講師)
参加は無料です。参加をご希望の方は、前日までに下記問合せ先にもメールでお申し込みください。
問合せ：神奈川県 村井まや子 email: murai@kanagawa-u.ac.jp



監修：大塚奈奈絵 主催：文化芸術研究センター(所長 神奈川大学教授 村井まや子) 協賛：日本学術振興会 科学研究費補助金
神奈川県立文化芸術振興局(文化芸術・プラスとウィリアム・キリスのデザイン思想) 協力：西宮多美子、秋月美由紀、神奈川県立図書館

科研費
KAKENHI

ポスターデザイン：大竹美由紀

ちりめん本と女性の文化

今から約 130 年前、「ちりめん本」と呼ばれる、美しい木版挿絵入りの欧文の和装本が出版され、欧米で日本土産として珍重されました。英語版「ちりめん本日本昔噺シリーズ」を中心に構成された本展では、特にこのシリーズの訳者の中で唯一の女性であったジェイムス夫人 (Mrs. T. H. (Kate) James) に光を当て、これまであまり注目されることのなかった、ちりめん本の「女性の文化」としての側面を明らかにします。

第一部 ちりめん本ができるまで

長谷川武次郎 (1853-1938) の考案したちりめん本は、和紙に木版の多色刷りで絵を印刷し、さらに木版や欧文活字で本文を印刷した後に、紙を何回も圧縮して縮緬状に加工し、絹の糸で綴じた和装本でした。ちりめんの布に似た風合いから「ちりめん本」、英語で crepe-paper books と呼ばれ、海外で人気を博しました。長谷川は、ちりめん本を国内で販売するとともに、1885 年頃から横浜に支社を持つ上海の出版社 Kelly & Walsh を通じて海外に輸出・販売しました。これは、日本の出版社が海外出版社と提携した最初の例といわれています。

ちりめん本の訳者としてよく知られているのは、英語版ではバジル・ホール・チェンバレン、ラフカディオ・ハーン、ドイツ語版ではカール・フローレンツなどです。彼らは明治政府が先進国の知識や技術や学ぶために雇用した「お雇外国人」と呼ばれた知識人や宣教師、外交官などでした。

挿絵を描いたのは、江戸幕府の御用絵師であった小林永濯をはじめ一流の絵師たちで、浮世絵と同じ技法で印刷されました。日本の木版技術は明治時代に入ると徐々に衰退したと言われていますが、長谷川の木版は彫りと刷りの技術が正確で、美しい仕上がりです。

第二部 「ジェイムス夫人って誰なんだい？」

ちりめん本「日本昔噺シリーズ」のうち、約半数にあたる 14 編を英訳したのは、ジェイムス夫人 (Mrs. T. H. (Kate) James, 1845-1928) でした。英国国教会の主席司祭を務めた父親のもと、スコットランドのアバディーンシャーに生まれ、コンスタンチノーブルで家庭教師をしていた時に海軍士官のトーマスと出会って結婚し、夫の転勤で 1876 年に東京に移り住みます。

夫妻は東京で日本研究家のチェンバレンと親しく交際するようになります。長谷川にジェイムス夫人を訳者として推薦したのは、おそらくチェンバレンではないかと思われます。ジェイムス夫人による古い日本の物語の英訳の美しさは、ちりめん本「日本昔噺シリーズ」が英語圏で多くの人々に愛読される一因となったと言えるでしょう。

ジェイムス夫人はちりめん本の他に長谷川が出版した小学校教科書『学校用日本昔噺 英文桃太郎』なども編纂し、日本の学生にも英語を教えました。

娘のグレイスは帰国後にオックスフォード大学で英文学を学び、児童書 John and Mary シリーズや、日本のおとぎ話の英訳などを出版し、作家として活躍しました。子どもだけでなく大人をも魅了した語り口が、母から娘へと語り継がれたことがうかがえます。

第三部 木版印刷者 小宮ヤスの美意識

長谷川は木版出版業者の小宮惣次郎の一人娘ヤス（1853-1954）と結婚しました。惣次郎の死後、ヤスが後を継いで木版の彫り師や摺り師と契約を結び、ちりめん本の印刷を続けました。ヤスが手がけた木版印刷は国際的に高い評価を得て、長谷川の出版をちりめん本以外の分野にも広げることにも貢献しました。

1900年のパリ万国博覧会への出品を計画した長谷川は、フランス語版のちりめん本の他に、錦絵の和紙として欧米で高い評価を得ていた奉書紙を使用した大型本2点を準備しました。そのうちの1冊、鈴木華邨の挿絵に、ベルギーの詩人エミール・ヴェルハーレンに詩作を依頼して制作した *Images japonaises*（1896年）の木版画印刷は、ヤスによるものでした。この本は、もう1点の大型本歌舞伎「寺子屋」のフランス語訳とともにパリ万国博覧会の「書籍の部」で金牌（賞）を受賞し、今も欧米の日本美術愛好家の間で稀覯本とされています。これ以降、長谷川の出版物は欧米の博覧会で数々の賞を受賞することになります。ヤスの木版印刷に対する確かな目と美意識は、ちりめん本にとどまらない木版印刷の魅力を海外に伝えました。

第四部 異国の家庭への招待

長谷川の出版したちりめん本には、「日本昔噺シリーズ」以外に「単発挿絵本」と呼ばれる一連の資料があります。日本文化の紹介を中心に様々な内容の挿絵本が残されていますが、女性による作品が多いことも特徴といえます。これらの本の挿絵をとおして、日本の家屋、室内装飾、食事、着物、植物、生きものなどの細々とした衣食住の様子が、遠く離れた国に住む読者に伝えられました。

元駐日英国大使で日本研究家でもあったヒュー・コータッツィ卿は、ちりめん本「日本昔噺シリーズ」が、子どもだけではなく、子どもに読み聞かせる親たちにも読まれたであろうこと、そして物語の内容だけではなく、当時の日本人の日常生活や文化を伝えたことを指摘しています。

スミス夫人『日本の子どもの1年』、メアリー G. Kimura『みつ的一天』は、いずれも女性が出版した、日本の子どもの生活を紹介する挿絵本です。冒頭には庭と家の佇まいや、畳の部屋の様子が詳しく説明されています。近代化がはじまったばかりの日本の人々の暮らしぶりが、独特の風合いを持つちりめん本によって魅力的に描き出されています。

謝辞

本展の開催にあたりご協力いただいた次の方々に深く感謝申し上げます。（敬称略）

西宮多美子、秋月美由紀、虎頭恵美子、片山純一、株式会社大入、神奈川大学図書館
本展は日本学術振興会 JSPS 科研費 JP15K02196 の助成を受けました。

村井まや子
神奈川大学外国語学部 教授
おとぎ話文化研究所 所長

解説

大塚奈奈絵

元国立国会図書館司書監

本展監修者

第一部 ちりめん本ができるまで

長谷川武次郎のちりめん本

今から約130年前、欧米の書籍や文具等を輸入するかたわら教育書等の出版業を営んでいた長谷川武次郎(1853-1938)の弘文社が、木版挿絵の入った欧文の日本昔噺の「小冊」を出版しました。明治18(1885)年のことです。長谷川武次郎は、1853年に日本橋でワインやタバコなどの輸入業を営んでいた西宮家に生まれ、築地の居留地の長老派のミッションスクールで宣教師から英語を学びました。25歳からは母方の家を継いで長谷川を名告るようになり、27歳の時には、のちにちりめん本「日本昔噺シリーズ」No.1の訳者となるタムソン(David Thompson)から洗礼を受けています。

当時の広告によれば、日本昔噺には英語版・ドイツ語版・フランス語版があり、また、「学校教科書用彩色無し」のものと「彩色絵入り」のものがありました。長谷川の回想では、出版と同時に輸出を始めたが売れ行きが思わしくなく、そのうちに「不圖縮紙でしたらばと思いついて」、工夫したのが縮緬(ちりめん)本でした。

木版多色刷りの絵を印刷した和紙を何回も圧縮してちりめん状の縮紙に加工することは江戸時代(1603-1868)の後期から行われ、千代紙、婦人の髪飾り等の他、一枚摺りの浮世絵(ちりめん絵)も作られていました。ちりめん絵はクレポン *crépon* と呼ばれ、加工により色が鮮やかになることから海外で人気があり、明治時代(1868-1912)にはさかんに輸出されました。近年では、ゴッホの《タンギー爺さん》の背景に描き込まれている浮世絵がちりめん絵であったことが判明しています。

長谷川武次郎の考案したちりめん本は、和紙に木版の多色刷りで絵を印刷し、さらに木版や欧文活字で本文を印刷した後に、紙を何回も圧縮して縮緬状に加工し、絹の糸で綴じた和装本でした。ちりめんの布に似たしなやかな風合いから「ちりめん本」、英語圏の国々では *crepe-paper books* と呼ばれ、海外で人気を博しました。長谷川武次郎が出版した彩色欧文木版挿絵本の中には、今回の展示されている *Aino Fairy Tales* のように平紙(奉書紙)を使用したものもありますが、ちりめん本が有名になったために、長谷川が出版したちりめん加工されていない墨摺りの木版挿絵本や平紙の彩色欧文木版挿絵本も、現代ではまとめて「ちりめん本」と呼ばれることがあります。

前述したように、長谷川武次郎は、ちりめん本の日本昔噺シリーズを国内で販売するとともに、出版を始めた直後の1885年頃から横浜に支社を持つ上海の出版社 *Kelly & Wash* を通じてちりめん本を海外に輸出・販売しました。これは、日本の出版社が海外出版社と提携した最初の例といわれています。

ちりめん本「日本昔噺」は、出版当初からの英語・ドイツ語・フランス語に加え、オランダ語、

スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、ロシア語、デンマーク語、スウェーデン語でも出版され、最終的には10カ国語で刊行されました。その中で冊数が最も多いのが英語版でした。最初に刊行された「日本昔噺シリーズ」はNo.1~20でしたが、このうちNo.16 *The Wooden Bowl* は9年後に *The wonderful Tea-Kettle* に変えられたので、全部で20編21冊となります。その後No.21~25の続「日本昔噺シリーズ」がやや大判で出版され、さらに「日本昔噺セカンドシリーズ」のNo.1~3が出版されました。続「日本昔噺シリーズ」のNo.23~25はラフカディオ・ハーン(Lafcadio Hearn)によるもので、後にハーンによる他の2冊と合わせた5冊が1セットとして出版されました。したがって、英語版の日本昔噺は計31冊が出版されたこととなります。「日本昔噺シリーズ」の英語版は、イギリスで最も歴史のある児童書の出版社であるロンドンのグリフィス・フェアラン社(Griffith, Farran & Co. London)によりロンドンとシドニーで販売されたことが知られています。

ちりめん本の訳者は、英語ではバジル・ホール・チェンバレン(Basil Hall Chamberlain)、ジェームス・ヘボン(James Curtis Hepburn)、ラフカディオ・ハーン、フランス語版では外交官であったジョゼフ・ドートゥルメール(Joseph Dautremere)やジュール・アダン(Jules Adam)、ドイツ語版ではカール・フローレンツ(Karl Florenz)等が知られています。これらの人々は、明治政府が先進国の知識や技術や学ぶために雇用した「お雇外国人」と呼ばれた大学教授等の知識人や宣教師、外交官達でした。また、唯一の女性の英訳者であるジェームズ夫人(Mrs. T. H. James)は、『松山鏡』を初めとする「日本昔話シリーズ」のうちの14編を英訳しました。ジェームズ夫人については、これまで詳しい紹介がなされていなかったのですが、今回の展示会では夫人の長女グレイス・ジェームズの著作に基づいて紹介いたします。

一方、挿絵を描いたのは、江戸幕府の御用絵師として日本画壇の主流であった狩野派に師事した小林永濯、のちに多くの博覧会等で受賞した鈴木華邨、歌川門下の新井芳宗らの絵師でした。木版の挿絵は、絵師が描いた絵を彫師が版木に彫り、刷師が色毎に何度も刷って仕上げるという浮世絵と同じ技法で印刷されていました。江戸時代に発展した日本の木版技術は、明治時代に入ると徐々に衰退したと言われていますが、長谷川の木版は彫りと刷りの技術が正確で、仕上がりの美しいものでした。ちりめん本の初期の印刷を担当した小宮惣次郎は長谷川武次郎の義父に当たり、惣次郎の死後は武次郎の妻の屋壽(ヤス、家壽)が印刷を引き継ぎました。今回の展示では、奥付に「発行者長谷川武次郎」と並んで「印刷者小宮屋壽」の名前が記されている本や小宮屋壽の印刷で、他の発行元から売り出された木版画も今回、展示いたします。

長谷川は、その後も、万葉集などの日本の詩歌の翻訳や、歌舞伎や落語、日本人の生活を紹介する様々な欧文挿絵本を出版し、海外に売り出すとともに、1900年パリ万国博覧会をはじめ多くの海外の展覧会に出品・入賞しました。長谷川のちりめん本は、ジャポニスムを背景に欧米を中心に愛好され、海外に日本文化を紹介する役割を果たしました。カール・フローレンツが翻訳した歌舞伎『菅原伝授手習鑑』の四段目「寺子屋」は、主君のために我が子を犠牲にする忠義を描いた演劇として有名になり、各国語に翻訳・翻案され、オペラも作られて、第二次世界大戦の直前まで世界各地で上演されました。

また、長谷川の成功を真似て、いくつかの日本昔噺や詩歌集、四十七士の討ち入りや日本の風景写真などのちりめん本も作られました。その中には、来日したフランス人のピエール・バルブトー(Pierre Barboutau)が河鍋暁翠らに挿絵を描かせて美術愛好家向けに出版した美しいちりめん本『ラ・フォンテーヌ寓話選』〔1894〕(*Choix de fables*)もあります。

一方、海外でちりめん本を知り、長谷川に出版を依頼した人々もありました。アメリカ人のポ

ール・カラスが長谷川に依頼して出版した『カルマ』の一節「蜘蛛の糸」は、その後、鈴木大拙の日本語訳が長谷川から出版され、芥川龍之介が子供向けに描いた同名の短編小説に影響を与えたことが知られています。

このように日本文化を海外に伝えたちりめん本でしたが、日本の木版印刷が衰退した 1910 年代になると、長谷川武次郎は出版事業の基軸を奉書紙による浮世絵の復刻やちりめん紙のカレンダー、クリスマスカードの製造に移していきます。染料などの材料の入手が難しくなったこと、優秀な技術者の不足が背景にあったようです。武次郎の仕事を引き継いだ次男の西宮与作は新たにフランス語版の「日本昔噺」などのちりめん本を出版し、ちりめん本は 1960 年代まで出版、販売されました。

主要参考文献

石澤小枝子『ちりめん本のすべて：明治の欧文挿絵本』三弥井書店, 2004.

Frederic A. Sharf. *Takejiro Hasegawa: Meiji Japan's Preeminent Publisher of Wood-block-illustrated Crepe-paper Books*. Salem, Mass.: Peabody Essex Museum, 1994.

Koyama, Noboru. "Grace James (1882–1965) and Mrs T.H. (Kate) James (1845–1928): Writers of Children's Stories." *Britain and Japan: Biographical Portraits*. Vol. IX. Ed. by Hugh Cortazzi. Folkestone, Kent: Renaissance Books, 2015. pp. 472-480.

Sir Hugh Cortazzi. *Images of Japan 1885-1912: Scenes, Tales and Flowers*. Norwich: Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts and Cultures, 2011.

出版と同時に横浜で販売

ちりめん本「日本昔噺」が初めて出版された年、1885（明治 18）年 11 月 8 日付の『絵入自由新聞』（873 号）の「弘文社出版広告」には「日本昔噺 横濱賣捌所 横濱居留地 70 番 ガゼット新聞社」とあります。『ジャパン・ガゼット』は、1867（慶應 3）年 10 月 12 日に横浜で英国人ブラック（J. R. ブラック）により創刊された毎夕刊行の日刊新聞でした。

参考文献

『絵入自由新聞』明治 18 年 11 月 8 日（873 号）

最初の「国際出版」— 横浜の Kelly & Walsh 社との提携

ケリー商会（Kelly & CO.）は、1875 年に横浜に来日した J.M. Kelly が、翌 1876（明治 9）年に横浜居留地に設立した新聞とたばこの小売店でした。その後、上海に居住する Walsh が経営に加わり、1886（明治 19）年にケリー・ウォルシュ商会(Kelly & Walsh, Limited)となって事業を出版にも拡大しました。横浜と上海の他、香港やシンガポールにも支店を開設します。

長谷川武次郎は、ちりめん本の出版を始めた直後からこの出版社と提携し、ちりめん本を海外に輸出・販売しました。これは、日本の出版社が海外出版社と提携した最初の例といわれています。

東洋文庫が所蔵のする Kelly & Walsh 販売 1889 年版 *Kelling's Guide to Japan* には、長谷川の「日本昔噺」シリーズの販売カタログが綴じ込まれています。それによれば、平紙本は 1 冊 15～20 セント、ちりめん本は 17 冊セットで 3 ドル 50 セントで販売されていました。

ケリー・ウォルシュ商会は、長谷川以外のちりめん本も出版していて、*My Japanese: A Topical Song*

of Japan は、横浜にも店舗を持ち、ちりめんの千代紙を販売していた伊勢辰が出版したものでした。

参考文献

向井晃「ケリー・ウォルシュ商会日本関係洋書目録」『東海大学課程資格教育センター』5号(1995), pp. 9-18

展示資料

Cortazzi, Hugh. *Images of Japan 1885-1912: Scenes, Tales and Flowers*. Norwich: Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts and Cultures, 2011. (個人蔵)

¹ 長谷川武次郎「木版画の輸出」『美術新報』33(3) 1914. pp. 26-123

² 山口県立萩美術館・裏紙記念館編『ゴッホと浮世絵タンギー爺さん』山口県立萩美術館・裏紙記念館 2001. pp.12-13

第二部 「ジェイムス夫人って誰なんだい？」

チェンバレン君

僕は「鏡」と「魂」についてのエッセイ、いや、むしろ途方もない哲学的なスケッチを書こうとしているところだ。ジェイムス夫人版の「松山鏡」に触発されたのさ。ジェイムス夫人って、誰なんだい？僕はこの版を15回程も読み返し、読むたびにより感動を覚える。そうして、あいまいな日本のお話をこんなにも美しいものに作り上げてしまった、優しい美しい魂を持つ女性のことを考えずにいられない。その人が宣教師であろうとなかろうとね。

(1894年3月9日 ハーンからチェンバレンへの手紙より)

DEAR CHAMBERLAIN, – I'm trying to write an essay – no, a fantastico-philosophical sketch – about Mirrors and Souls. Especially Souls. Which causes me to think about Mrs. James's version of the 'Matsuyama Kagami'. Who is Mrs. James? I have read her version about fifteen times, and every time I read it, it affects me more. And I can't help thinking that the woman who could thus make the vague Japanese incident so beautiful must have a tender and beautiful soul, – whoever she is, – whether missionary or not.

(Bisland, Elizabeth, ed. *The Japanese Letters of Lafcadio Hearn*, London: Constable, 1911. p. 277)

ジェイムス夫人は、ここ日本での私の最も早い時期からの友人の一人さ。—ごつごつした骨格と高い頬骨の典型的なスコットランド人の外見で、美しくも優雅でもないけれど、読書家で真心を持った優秀な女性だよ。

かなり著名なスコットランド人聖職者の娘だけれど、必ずしも豊かに育てられたわけではないようだ。何故って、あの国の聖公会聖職者は貧しいからね。彼女と姉妹が夜、どんなふうにも病気の牛と座っていた(世話をしていた?)かを夫人が話してくれたことがあるよ。ともあれ、夫人はコンスタンチノーブルで家庭教師をしていて、そこで文無しの英国海軍中尉である未来の夫君と出会ったのさ。それでも二人は結婚し、今では、夫君は日本郵船会社の顧問になって、大いに繁栄しているよ。

(1894年3月15日 チェンバレンからハーンへの手紙)

Mrs James is an excellent woman, and one of my earliest friends here, – true-hearted and well-read, though boasting neither beauty nor grace, but a typical Scotch-woman in appearance, hard-featured and high-cheek-boned. She was daughter to a rather eminent Scotch dean, which does not mean that she was reared in luxury, for the Episcopalian clergy in that country are miserably poor. She tells of how she and her sister used to take turns in sitting up at night with sick cow! Afterwards she lived at Constantinople as a governess, which is where she met her future husband, then a sub-lieutenant in the English navy, – also without a penny. However, they married, and now flourish exceedingly, he being adviser to the Nippon Yusen Kwaisha.

(Koizumi, Kazuo, comp. *Letters from Basil Hall Chamberlain to Lafcadio Hearn*, Tokyo: Hokuseido Press, 1936. p. 84)

ジェイムス夫人の生い立ち

長谷川武次郎の「日本昔噺」のうち14編を翻訳したジェイムス夫人(結婚前の姓名は Kate Margaret Rankin、 Katherine M. Rankin、または Catherine M Rankin)は、1845年スコットランドのアバディーンシャー、オールドディアー (Old Deer, Aberdeenshire) に生まれました。父のアーサー・ランキン (Arthur Ranken, 1806-1886) は牧師で英国国教会の主席司祭を務め、著作もある博学な人物でした。ケイトはトルコのコンスタンチノーブル (現在のイスタンブール) で家庭教師をしていた時にケント出身の海軍士官であったトーマス(Thomas H. James) に出会い、1870年代のはじめに結婚して、夫トーマスの転勤により、1876年に東京に移り住みます。

チェンバレンとの出会い

トーマスは1884年10月まで東京築地の海軍兵学校(Japan's Naval Academy)で測量学や数学を教え、遠洋練習航海のさきがけとなった練習艦「筑波艦」に乗り込みます。夫妻は芝山内の海軍省属舎(第3号)に住み、ジェイムス夫人はその庭で植物を育てることを楽しみました。夫妻はこの時期に同じ海軍兵学校で教鞭を取っていた日本研究家で、後に帝国大学名誉教授となるチェンバレン (Basil Hall Chamberlain) と親しく交際するようになります。チェンバレンもまた、長谷川のちりめん本「日本昔噺シリーズ」を翻訳したことが知られていて、おそらくは、ジェイムス夫人を長谷川に紹介したものと思われます。

チェンバレンからハーンに宛てた手紙には、結婚して11年後から次々に3人の子どもに恵まれたジェームス夫人が、最初は子ども達に向けてお話を書いたとあります。

英語教師として — 教え子は皇孫 (後の昭和天皇) の御用に

ジェイムス夫人は、ちりめん本の他に長谷川が出版した文部省検定済小学校教科書『学校用日本昔噺 英文桃太郎』を編纂し、英語の独習書『英文日本昔話独学 桃太郎』を出版しています。グレイスによれば、元家庭教師のジェイムス夫人は日本の学生にも英語を教えていた。その中の一人川村鉄太郎はのちに家族の友人となり、ジェイムス家に滞在したこともあるということです。川村は英国留学後に皇孫 (のちの昭和天皇) の御用をつとめ、父の後をついで伯爵、貴族院議員になりました。後年、日本大使館勤務となったアーサーを訪問したグレイスを東京で歓待したということです。

母から娘へ — 日本の昔噺の伝承

帰国後のグレイスはオックスフォード大学セント・ヒルダズ・カレッジで英文学を学び、1910年には、*Green Willow and Other Japanese Fairy Tales* [青柳、その他の日本のおとぎ話] を出版しました。この中には、母ジェイムス夫人の翻訳した『松山鏡』がそのまま収録されています。グレイスは、この他にも児童書 John and Mary シリーズなど、多数の著作を残しています。

参考文献

James, Grace. *Japan: Recollections and Impressions*. London: Gorge Allen & Unwin, 1936.

展示資料

The Matsuyama Mirror [松山鏡] (A388-10-113)

The Hare of Inaba [因幡の白兔] (A388-11-113)
The Cub's Triumph [野干の手柄] (A388-12-113)
The Princes Fire-Flash and Fire-Fade [玉ノ井] (A388-14-113)
The Wooden Bowl [鉢かづき] (A388-16.A-113)
Shippeitaro [竹篋太郎] (A388-17-113)
The Ogre's Arm [羅生門] (A388-18-113)
The Ogres of Oyeyama [大江山] (A388-19-113)
The Enchanted Waterfall [養老の滝] (A388-20-113)
Three Reflections [三つの顔] (A388-21.O-113)

ジェイムス夫人 (Mrs. T.H. (Kate) James) 年譜

西暦 (和暦)	年齢	
1845 年		スコットランド アバディーンシャーのオールドディアードで誕生
1871 年?		トルコのコンスタンチノーブルで海軍中尉 Thomas H. James と結婚
1876 年(明治 9 年)	31 才	来日、11 月 25 日より夫トーマスは Japan's Naval Academy で測量術等の教鞭をとる(~1882 年)。チェンバレンと知り合う。住所は芝山内海軍省属舎第三号
1882(明治 15)年	37 才	長女グレイス(Grace)誕生
1883(明治 16)年	38 才	長男アーサー(Arthur)誕生
1885(明治 18)年	40 才	夫トーマスは M. B. M. S. S. Co. (後の日本郵船) に勤務。
1886(明治 19)年	41 才	11 月『松山鏡』、12 月『因幡の白兔』出版
1887(明治 20)年	42 才	1 月『野干手柄』、7 月『玉ノ井』、11 月『鉢かづき』出版 3 月文部省検定済小学校教科書『学校用日本昔噺 英文桃太郎』編纂 次女エルズペス(Elspeth)誕生
1888(明治 21)年	43 才	9 月『英文日本昔話独学 桃太郎』出版 12 月『竹籠太郎』出版
1889(明治 22)年	44 才	8 月『羅生門』出版 夫トーマスは日本郵船の航海監督に(~明治 30 年 1 月) 麻布仲ノ町に転居
1891(明治 24)年	46 才	7 月『大江山』、12 月『養老の滝』出版 赤坂に転居
1893(明治 26)年	47 才	麻布今井町に転居
1894(明治 27)年	49 才	2 月『三つの顔』出版
1895(明治 28)年	50 才	長男アーサーが prep school に入学するために英国へ。その後、他の家族と共に帰国。
1896(明治 29)年	51 才	4 月日本郵船ロンドン支店新設 6 月『分福茶釜』、『思い出草と忘れ草』出版
1897(明治 30)年	52 才	1 月夫トーマスが日本郵船ロンドン支店長に
1899(明治 32)年	54 才	7 月『不思議の小槌』出版
1903(明治 36)年	58 才	『壊れた像』出版
1910(明治 43)年	65 才	4 月夫トーマスが死去。グレイスが <i>Joan of Arc</i> と <i>Green Willow and Other Japanese Fairy Tale</i> を出版し、作家としてデビュー。
1928(昭和 3)年	83 才	12 月 29 日に Stonehill House, Sutton Wick, Abingdon, Berkshire で死去。
1932(昭和 7)年		アーサーが東京の英国大使館付きに (~1936 年)
1934(昭和 9)年		グレイスが東京のアーサーを訪問
1936(昭和 11)年		グレイスが <i>Japan: Recollections and Impressions</i> を出版

第三部 木版印刷者 小宮ヤスの美意識

初期の弘文社

幼少時から英語を学び、ガイドをしたり、自宅で英語を教えたりしていた武次郎は、やがてワインやたばこなどの輸入事業をはじめます。弘文社の名で書籍の販売を始めたのは1877(明治10)年の末頃だったようです。翌1878(明治11)年には長谷川姓を継ぎ、1879(明治12)年以降は東京府学務課が編纂した各種の教科書等をはじめ、「教育書房 弘文社」として、様々な本を出版するようになります。

ちりめん本の出版

関係者の話によれば、1885(明治18)年、長谷川武次郎は木版出版業者の小宮惣次郎の一人娘ヤスと結婚しました。小宮惣次郎は1834(天保5)年、江戸押上の生まれで、もともと農家でしたが、惣次郎の代から印刷を営んだと言われています。惣次郎の印刷により、武次郎は木版挿絵入りの外国語の学習書として英語・ドイツ語・フランス語の「日本昔噺シリーズ」の出版を始めます。白黒の学校用、彩色版、そして「不圖縮紙でしたらばと思いついて」、ちりめん本を売り出します。

ちりめん本の海外進出と「小宮屋壽」

ちりめん本は「各国の大家」の翻訳と美しい挿絵、独特の手触りで海外で人気をばくしました。長谷川はGriffith Farran社をはじめとする海外の出版社と提携し、欧米にちりめん本を販売しました。この成功により、長谷川以外の出版者も様々なちりめん本を出版しました。

1892(明治25)年11月23日、ヤスの父小宮惣次郎がなくなると、一人娘であったヤスが父の後を継いで木版の彫り師や摺り師と契約を結び、ちりめん本の印刷を続けました。この年の12月に出版された*Japanese jingles*の奥付には「木版印刷者 東京府平民 小宮家壽 東京市本所区押上町百五十二」とあります。同時にこの頃から、ちりめん本の出版では「弘文社」の名前は使われることが少なくなり、出版人として長谷川武次郎またはT. Hasegawaが使われるようになります。

木版印刷者「小宮屋壽」

1894(明治27)年7月には日清戦争が始まり(～1895(明治28)年3月)、戦況を伝える木版の戦争絵は空前のブームとなります。新井芳宗画、三坂菊次郎発行『明治二十七年九月十五日 元山支隊平壤城下夜戦之図』には印刷者として「小宮屋壽」の名が残されていて、屋壽が長谷川以外の木版印刷も手がけていたことが分かります。以後、1901(明治34)年頃まで、奥付に印刷者または絵画印刷者として「小宮屋壽」(やす、家壽)と書かれたちりめん本が多数残されています。

万国博覧会での金賞受賞

1900(明治33)年、武次郎はパリの万国博覧会にちりめん本と奉書紙を用いた木版挿絵本を出品し、金賞を受賞します。以後、1904(明治37)年のセントルイス万国博覧会、1905(明治38)年のリエージュ万国博覧会、ポートランド博覧会(ルイス・クラーク100周年記念万国博覧会)、1910(明治43)年日英博覧会、1915(大正4)年のサンフランシスコ万国博覧会で金賞を受賞し、1911(明治44)年のトリノ国際博覧会でも大賞を受賞しました。

1902(明治 35)年、ヤスは小宮姓から長谷川姓への改姓の申し立てを行ない、翌年 5 月東京地裁に改姓が認められました。明治 30 年代の後半以降、技術者や材料の不足等で新しいちりめん本は作られなくなりましたが、長谷川はカレンダーやカード、木版の浮世絵の輸出に力を入れ、一時は「困る位盛んに」注文があったといえます。

武次郎とヤスの間には 3 男 3 女があり、次男が西宮姓と事業を引継いで、ちりめん本は昭和 40 年代まで出版が続けられました。

展示資料

The Wonderful Tea-Kettle [文福茶釜] (A388-16.B-113)

The Boy Who Drew Cats [猫を描いた少年] (A388-131)

White Aster, A Japanese Epic: Together with Other Poems [孝女白菊] (A388-129)

新井芳宗画、三坂菊次郎発行『明治二十七年九月十五日 元山支隊平壤城下夜戦之図』(個人蔵)

長谷川武次郎と小宮ヤス関係年譜

西暦 (和暦)	年 齢		
	武次郎	ヤス	
1853(嘉永 6)			10月8日武次郎、西宮興惣兵衛、袖の次男として日本橋で誕生
1867(慶応 3)			6月28日ヤス、小宮惣次郎の娘として押上で誕生
1877(明治 10)	24		武次郎結婚 (その後離婚)。この頃から書籍販売を始める
1878(明治 11)	25		9月28日、長谷川清七の遺跡を相続し長谷川姓になる
1879(明治 12)	26		2月東京府学務課編纂『改正再版 東京府地誌略 上巻』に「 <u>発兌所</u> 京橋区南佐柄木町二番地」。8月13日の東京日日新聞の広告には書肆として「京橋区南佐柄木町二番地 教育書房 弘文社」とあり。その他、東京府学務課の編纂物発行を手がける。10月森山修太郎『簿記学例題』第2版刊行「京橋南佐柄木町2番地 弘文社」、以後、教育書を中心に発兌、売捌
1885(明治 18)	32	18	長谷川武次郎が小宮ヤスと結婚 8月～長谷川武次郎が「日本昔噺シリーズ」(英語版、フランス語版、ドイツ語版)の出版を始める
1887(明治 20)	34	20	2月19日長男敬事誕生 11月森山修太郎『訂正再版 簿記学例題』刊行 (弘文社の販売目録あり)
1890(明治 23)	37	23	京橋区日吉町に転居
1892(明治 25)	39	25	11月23日、ヤスの父小宮惣次郎没 12月出版の <i>Japanese jingles</i> の奥付に「木版印刷者 東京府平民 小宮家寿 東京市本所区押上町百五十二」。以後、明治34,5年頃まで奥付に印刷者または絵画印刷者として「小宮屋壽」(やす、家壽)と書かれたちりめん本が多数出版される
1894(明治 27)	41	27	日清戦争 1894年7月25日 (~1895 (明治 28) 年3月) 新井芳宗画、三坂菊次郎発行『明治二十七年九月十五日 元山支隊平壤城下夜戦之図』を小宮屋壽が印刷
1896(明治 29)	43	29	1月19日次男与作誕生
1897(明治 30)	44	30	4月16日長女アイ誕生
1900(明治 33)	47	33	パリ万国博覧会で金賞受賞
1902(明治 35)	49	35	<u>四谷区本村町に転居</u>
1903(明治 36)	50	36	5月23日東京地裁により屋壽が小宮姓から改姓。11月13日三男三平誕生
1904(明治 37)	51	37	<u>セントルイス万国博覧会金賞受賞</u>
1905(明治 38)	52	38	リエージュ万国博覧会金賞受賞、ポートランド博覧会 (ルイス・クラーク100周年記念万国博覧会) 金賞受賞
1908(明治 41)	55	41	1月27日次女操誕生
1910(明治 43)	57	43	日英博覧会で金賞受賞。8月13日三女澄誕生
1911(明治 44)	58	44	トリノ国際博覧会で大賞受賞。下谷区上根岸に転居
1915(大正 4)	62	48	サンフランシスコ万国博覧会金賞受賞
1938(昭和 13)	85	61	7月19日長谷川武次郎没
1954(昭和 29)		86	小宮ヤス没

第四部 異国の家庭への招待

元駐日英国大使で、日本アジア協会の代表やロンドン日本協会の代表も勤めた日本研究家でもあったヒュー・コータツツイ卿は、その著 *Images of Japan 1885-1912* の中で、ちりめん本「日本昔噺シリーズ」について、「外国の子供たちとその親たちは、幻想的な登場人物や神話的な存在を紹介されると同時に、日本の人々の家庭や家族にも招待されたのです。」(Foreign children and their parents were introduced to fantastic characters and mythical beings. They were also invited into private Japanese homes and families.) と述べています。

児童書として扱われることの多いちりめん本ですが、子ども向けと言われる児童書の多くは、両親や祖父母など、身近な大人達が子どもたちに向かって読み聞かせるものでもあります。コータツツイ卿が指摘するように、ちりめん本「日本昔噺シリーズ」が子どもだけでなく大人にも読まれたであろうこと、そして、物語の内容だけでなく、日本人の生活や文化が伝えられたことがうかがえます。

女性の作者たち

長谷川の出版したちりめん本には、「日本昔噺シリーズ」以外に「単発挿絵本」と呼ばれる一連の資料があります。日本文化の紹介を中心に様々な内容の挿絵本が残されていますが、女性による作品が多いことも特徴といえます。

スミス夫人『日本の子どもの1年』、メアリー G. Kimura 『みつ的一天』は、いずれも女性が出版した、日本の子どもの生活を紹介する挿絵本です。冒頭には庭と家の佇まいや、畳の部屋の様子が詳しく説明されています。当時の外国人女性達にとっては、日本人の居住空間は珍しく、魅力的なものであったのだと思われます。さらに室内の飾り物や食事などの細々とした生活空間の様子が西欧に伝えられました。

展示資料

The Children's Japan [日本の子どもの一年] (A388-130)

A Day with Mitsu [みつ的一天] (A388-130)

The Mouse's Wedding [ねずみ乃よめいり] (A388-6.B-113)

The Birds' Party [鳥たちの宴] (A388-2-134)

Princess Splendor [竹取物語] (A388-133.B)

Momotaro [桃太郎] (A388-1.B-113)

The Old Woman Who Lost Her Dumpling [お団子ころりん] (A388-24-113)

The Fisher-Boy Urashima [浦島] (A388-8-113)

Tongue Cut Sparrow [舌切雀] (A388-2.B-113)

Chin Chin Kobakama [ちんちん小袴] (A388-25-113)

Kohana San [小花三] (A760-31)